

SCHOOL DATA

〒261-0005 千葉市美浜区稲毛海岸2-3-2  
 TEL.043-246-4185 FAX.043-244-7489  
 ■児童数/78人 ■教職員数/11人 ■周辺環境/住宅地 (平成20年5月1日現在)



ビオトープの森



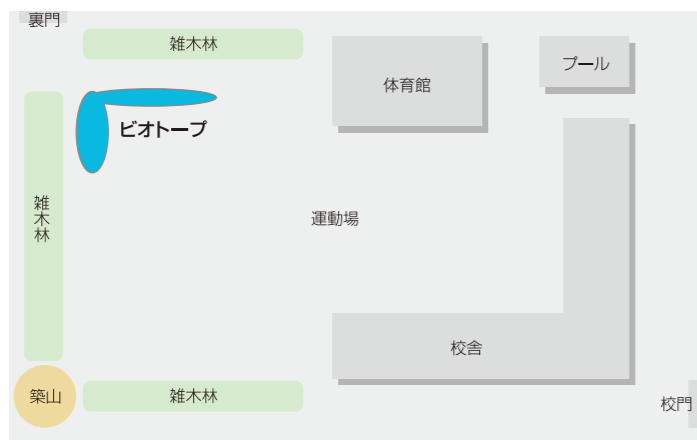
太陽光パネル

## ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/300㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1998年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/教職員  
 ビオトープ整備実行委員

### <コンセプト>

本校は、千葉市の東京湾に面した埋め立て地に位置している。自然の少ないと言われる埋め立て地ではあるが、創立以来30年を経過し、学校敷地内に築山を中心として森や雑木林が形成され、秋には大量のドングリが実るようになってきている。この環境の中に池や小川を配置し、あわせて水田や湿地等を整備することによりビオトープとして充実させ、隣接する市の緑地や公園、遊歩道等を含め、千葉市郊外の原風景とも言える里山の環境を埋め立て地に再現することを目的としている。また、現在太陽光発電装置を設置しているが、これに加え、将来的には掘り抜き井戸や風力発電装置等を付加し、生活科・理科・総合的な学習の時間などで活用したり、日常的な憩いの場や遊びの場とすることで、子どもたちの科学への関心と環境保護への意識を高めていけると期待できる。



### 生息している生物

#### <メダカ・トンボ池>

**植物:**スダジイ、クロマツ、タブノキ、マサキ、ヤブニッケイ、クヌギ、クリ、フジ、カラスノエンドウ、シロツメクサ、オオバコ、セイヨウタンポポ、ヨモギ、ススキ、エノコログサ、アヤメ、ホテイアオイ、ヨシ、イネ等

**動物:**オナガ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、スズメ、ツバメ、カナヘビ、メダカ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、アメリカザリガニ、ニホンアマガエル、マルタニシ、カワナ、ミズスマシ、モンシロチョウ、テントウムシ、アゲハ、アブラゼミ、シロスジカミキリ、ショウジョウバッタ、エンマコオロギ、シオカラトンボ、オニグモ等

#### 今後生息させたい生物

ヨシノボリ、モツゴ、ガマ、マコモ、オモダカ  
 なお、外来種については除去する方向である。



ザリガニ釣り



植樹

## ビオトープの活用方法

### (1) 遊びや潤いの場として

敷地外周のドングリ林や築山、草地とビオトープを合わせた観察コースを設置し、散歩や遊び、諸活動で活用する。

### (2) 学習の場として

**生活科:**生き物の季節による違いを遊びを通して学習する。花摘み、虫探し、ドングリ拾い、落ち葉集め。

**理科:**小動物、林や水辺の植物、川や水の流れの学習。

**総合的な学習の時間:**自然、生態、環境等のテーマについて、自ら課題を考え、自力で解決していく学習の場として。

### (3) ボランティア学習の場として

住み良い環境作りのため、自らの意志で、互いに協力し、活動することの意義を学ぶ。

### (4) 地域との連携の場として

近隣校や公民館で実施しているビオトープを活用した自然観察活動と共催し、児童、保護者、地域住民、教師が加わる観察会を行う。

## ビオトープの効果

### ■児童への効果

- 生物や環境の授業でビオトープを活用することにより、児童の理解が深まる。
- 生き物に触れることで、児童の心に潤いが生まれ、生命尊重の意識が育つ。
- 太陽光発電や水の循環システム等を理解する事で、環境保護の意識が育つ。

### ■教職員への効果

- 生活科、理科、総合的な学習の時間、特別活動等に効果的に活用することができる。

### ■保護者、地域住民への効果

- 埋め立て地の自然に乏しい環境の中で、地域の人々と水に親しめる施設を作ること、施設が地域交流の核となる。

## 保護者、地域との連携

### 保護者

保護者との連携を深め、整備の作業等について助力を仰ぐ。

### 自治会、町会

整備委員会を発展させ、地域が主体となった維持・管理の方向性を目指す。

### NPO

ちばサイエンスの会と連携して、学習プログラムの開発を行って行きたい。

## 整備・活用・管理等の課題

ビオトープの設置・管理については一貫した方向性がなく、また、地域との連携も十分では無かったため、有効に活用されていなかった。

本校は小規模校であり、児童数・教職員数とも少なく、整備の人手にも事欠く現状であるが、保護者や地域との連携を密に整備・活用・管理を進めていきたい。

また、整備や改修のシステムもできるだけ省力化できる方向を検討し、少ない予算で運営できるようにしていきたい。

## 今後の展望

本校の学区は、埋め立て地に位置し、周囲はコンクリートの構造物で覆われている。そんな場所でも秋になりトンボが舞っている姿を見ると、心が和むことがある。

子どもにとっては、この地が将来「ふるさと」として思い出されるようになるわけだが、その思い出の核の中に、自然から得られる潤いを、また地域の人々との交流から生まれる優しさを含ませたい。そして、施設の整備と活用の充実を図り、子どもたちの科学への夢をふくらませていきたいと考える。